



# MEXCBTをパフォーマンス評価等で活用して 生徒の自己調整力を伸ばしましょう！

©岡山県「ももっち」

令和6年6月6日付事務連絡で、MEXCBTに「話すこと」「書くこと」を中心としたCBT問題が搭載されていることをお伝えしました。今号では、児童生徒の自己調整力を伸ばす活用方法について紹介します。小学校においても、MEXCBTの活用とともに、どのような場で自己調整力を伸ばすことができるか校内で話し合ってみませんか。



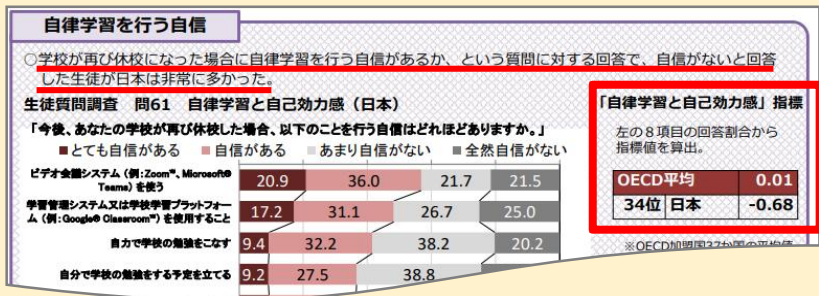
## 参考：自己調整力に関わる日本及び岡山県の現状

PISA2022調査において、日本の生徒は「数学的リテラシー」「読解力」「科学的リテラシー」は世界トップレベルであったものの、「自律学習と自己効力感」に課題があり、自律(自立)した学習者の育成に向けた取組を進めていく必要があることが分かりました。

(PISA2022のポイントより)



[https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2022/01\\_point\\_2.pdf](https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2022/01_point_2.pdf)



全国学力・学習状況調査における「自律学習と自己効力感」に関わる児童生徒質問紙調査項目の、岡山県の数値は以下のとおりです。

	小6	中3
R5	77.7 <b>-0.8</b>	69.0 <b>-5.7</b>
R4	78.5	74.7

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。  
※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた割合

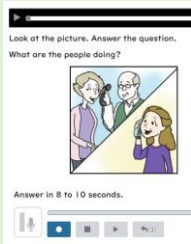
R5とR4の結果を比較すると、小6・中3ともに数値が低下し、特に中3において全国平均との差が大きくなっています。授業や家庭学習において、児童生徒が自律的に学び、自己効力感をもつことができるように改善することが必要です。



## MEXCBTをパフォーマンス評価で活用し、生徒自身が自己調整力を伸ばす取組の例

「話すこと」の例：単元末(学期末)のパフォーマンステストに向けて、生徒が家庭学習で練習に取り組む

①問題に取り組み、自分が話したことを録音する。



②自分の録音と、サンプルアンサーやスクリプトを比較して、自己評価する。



← サンプルアンサー

← スクリプト

← 解説

④自分に合った方法やペースで練習する。



③自分の次への課題を明確にする。



ワークシート例を添付しますので、生徒の実態に合わせて改変し、活用してください！

